平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号	5	―	14

1　事務事業の表示

※ ■　：　該当

事務事業名	精神障害者通院通所交通費助成事業					
評価者	担当課名		保健福祉課	担当係名		保健係
	管理職	職名	保健福祉課長	作成者	職名	保健係長
		氏名	淡路至尊		氏名	佐々木希美枝
事業の概要	精神障害者の地域生活の安定と充実を図ることを目的に、通院または社会復帰関連施設へ通所する際の交通費を助成する。					

全体計画	/単年度繰返
（平成 20 年度～ 24 年度）	

事業費		
国･道支出金		千円
地方債		千円
その他		千円
一般財源	2,150	千円
事業費計	2,150	千円

実施方法	■ 直営	□ 民間委託	□ その他（　　）

第 5 期 総合計画（前期）	■ 登載事業	□ 非登載事業	優先度	B

事業の位置付け			
政策目標	2	ぬくもり･雄武～保健･医療･福祉の充実～	
基本施策	9	障がい者支援の充実	
単位施策	3	社会参加の促進	
事務事業の種類	■ 自治事務	□ 法定受託事務	
その他計画･根拠等	障害者基本法、障害者自立支援法		

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
国･道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	277 千円	368 千円	313 千円	420 千円	430 千円
合計	277 千円	368 千円	313 千円	420 千円	430 千円

2　事務事業の目的･内容（Plan･Do）

【誰、何が（対象）】	精神障害者	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	町外の専門医療機関･社会復帰関連施設への定期的な通院･通所が必要である	事業利用者数		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	精神障害者が必要な定期通院、通所の機会を確保できる	① 事業利用者数の増（平成21年度実績 実利用者数15人 延利用回数159件）	目標年度	22年度
			目標値	30 人
			実績値	15 人
			達成度	50.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	精神障害者の心身の安定を図り在宅生活を継続できる	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
通院･通所交通費の助成	町外の精神科専門医への通院、地域活動支援センター等への通所に係る交通費を助成した。

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

概ね必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	精神障害者の福祉サービスは身体障害者・知的障害者と比較して制度が十分ではなく、医療施設・福祉施設は町外にしかないため、専門機関への定期通院等のためには一定の助成が必要と考える。 身体障害者手帳等他制度を利用できる方は他のサービスを利用している。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 ■ほぼ達成 □下回る	事業の利用により定期通院が継続され、病状の安定や在宅生活の継続等に効果が見られる。また、家に閉じこもりがちな障害者が、通所施設を利用し、社会参加を図る上で有効な支援策となっている。 事業利用を利用者の病状・生活安定度の尺度としての視点を加え、在宅生活支援の充実を図る。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 ■時間短縮・作業軽減 □その他	事務作業の軽減を図る工夫等により効率的に実施することができた。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	事業利用者は限定されているがくらしの支援情報等による周知の効果か、少数ではあるが新規の利用者もみられている。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
目標の達成には至らなかったが、新規の事業利用者がみられており、一定の効果が認められていると考える。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
自立支援医療担当、精神科医療機関等の連携のもと、事業を必要とする町民に対して事業の利用促進を図りながら事業を継続する。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）